

鉄道新駅の開業を契機とした継続的なまちづくり促進施策

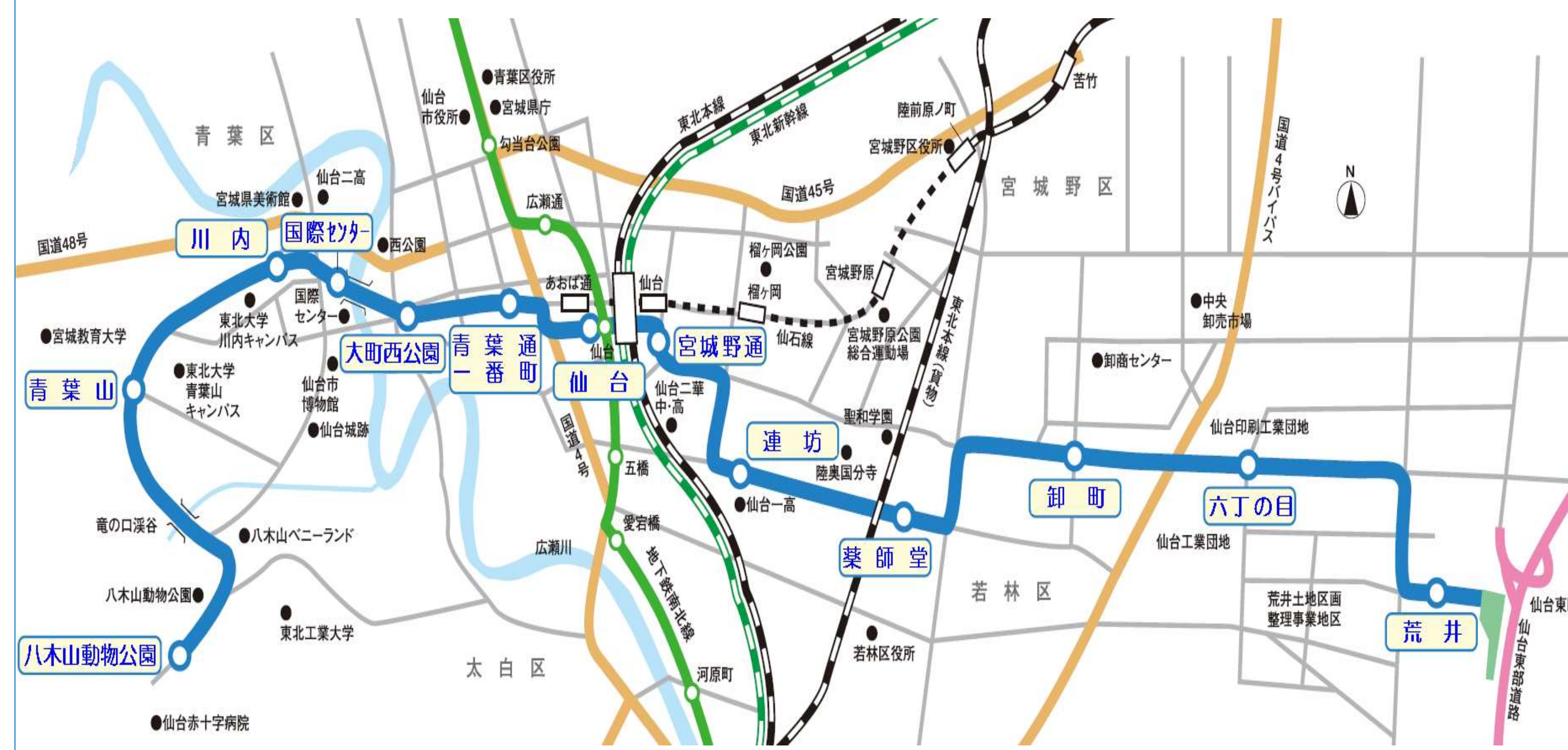
(公財)仙台市建設公社 常務理事 岩崎 裕直

目的及び背景

- ・ 仙台市では地下鉄を基軸に機能集約型市街地形成を目指している。2015年12月6日に開通した仙台市営地下鉄東西線(開業時予測約8万人/日)の利用が沿線まちづくりの進展が思わしくなく、伸び悩んでいる。
- ・ このような状況から、鉄道新駅の開業を捉えモビリティ・マネジメントツールを取り入れながら、新駅周辺のまちづくりを継続的に促進させていく取り組みが必要となっている。

2

地下鉄東西線路線図



13駅 営業キロ13.9km リニアモーター駆動方式 建設費2,298億円

3

主なモビリティ・マネジメントツールとまちづくり促進施策

① 新駅周辺散策マップづくり

- ・ 地域団体やまちづくり関係者ばかりでなく、郷土史研究者やイベント関係者など、拡がりのある構成メンバーでマップ作成チームを設ける

② まち歩き(ワークショップ)の開催

- ・ マップづくりと併行して多くの市民に地域と触れ合う機会を創出し、マップ作成に反映した

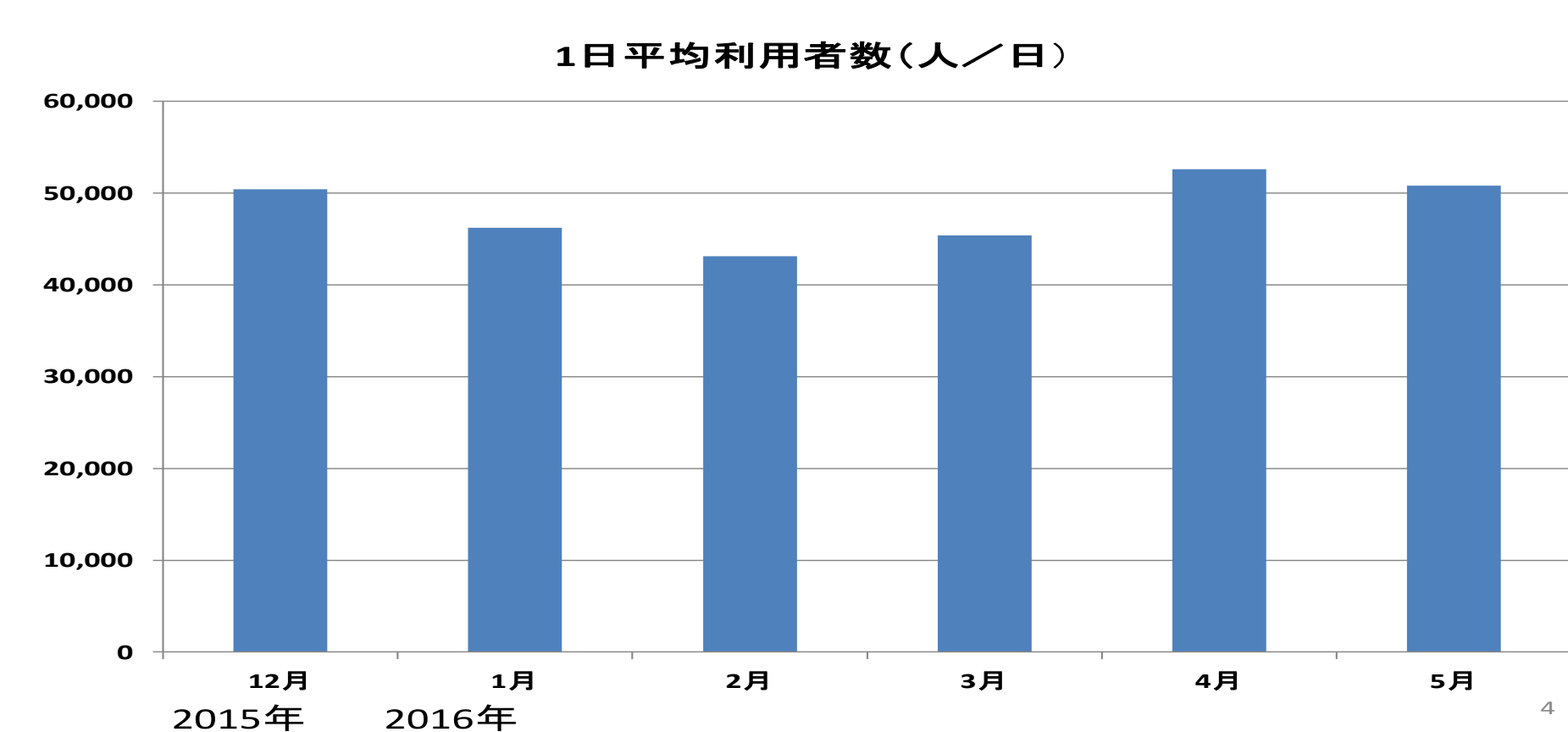
③ 散策マップ活用イベントの開催

- ・ 完成したマップを活用して散策会を開催し、新駅周辺まちづくりを促進



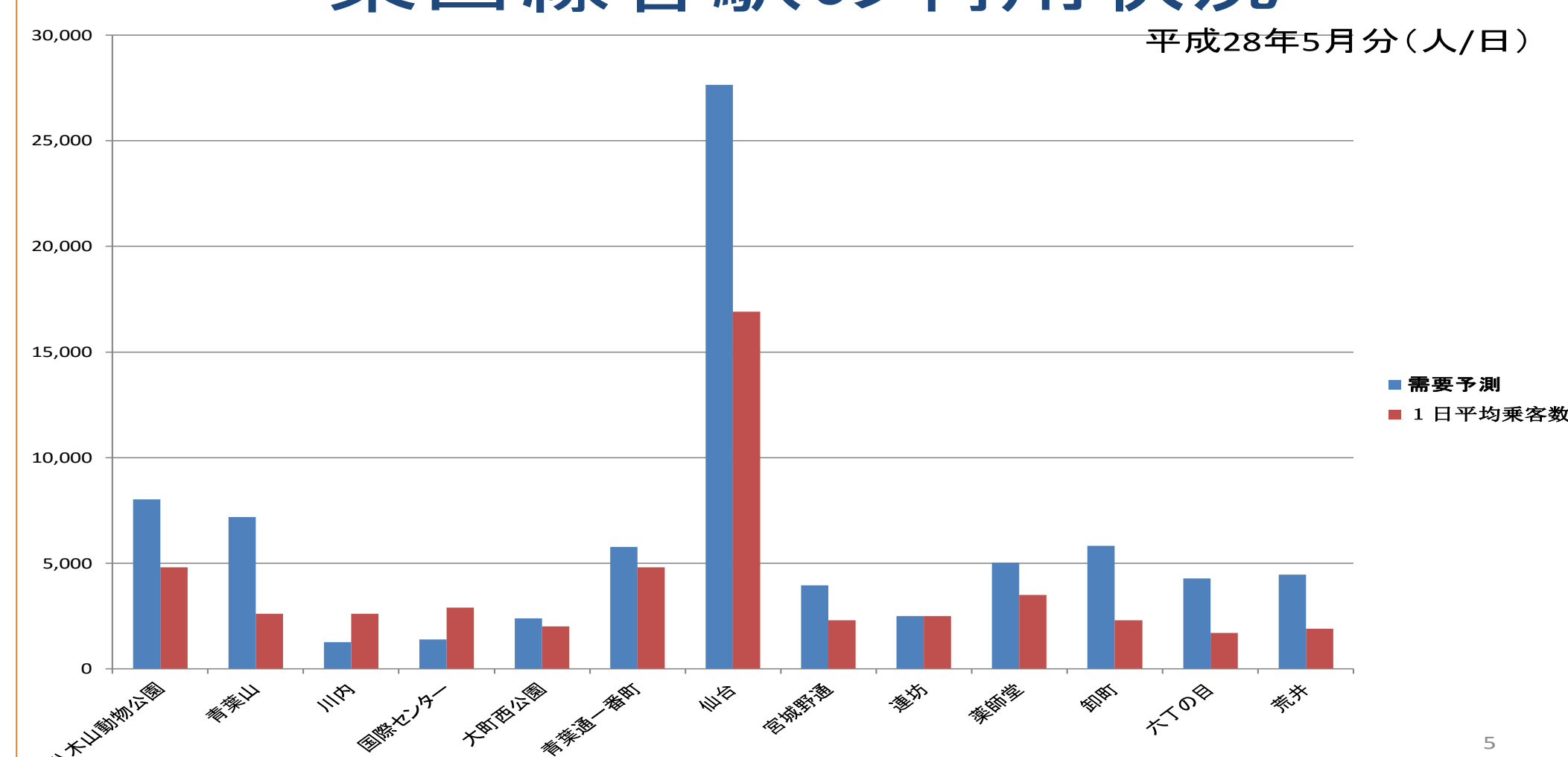
6

東西線利用者数推移



4

東西線各駅の利用状況



5

① 新駅周辺散策マップづくり

- ・ 地域により事情が異なるので、キーマンを見出しながらマップづくり推進のためのチームを構成
 - ・ 町内会関係者は高齢者が多いが、学校関係者は学生含め若い世代が多い。郷土史研究者やまち歩きなどのイベント主催者も構成員に加えて拡充
- なお行政や他の関係機関より助成や協力を得た

(青葉山マップ作成委員会開催状況)



(片平マップ作成委員会開催状況)



② まち歩き(ワークショップ)の開催

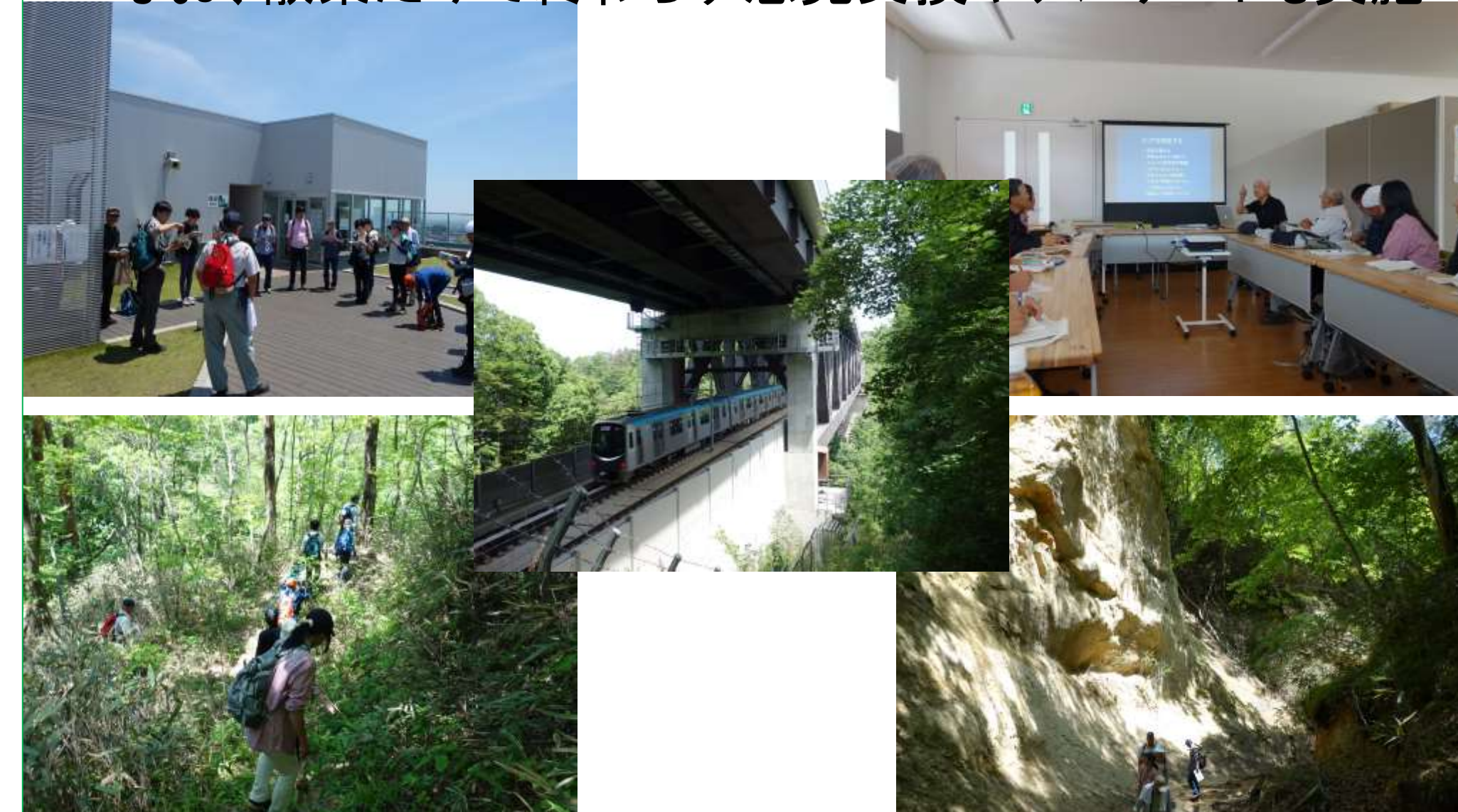
- ・ マップづくりと併行してワークショップの開催を1地域最低1回以上開催
- ・ 市民などに地域と触れ合う機会をつくることは必要不可欠だが準備が大変だが、慣れると楽になる
- ・ 季節や実施時期は参加者数に影響大

(片平地区ワークショップ開催状況)



③ 散策マップ活用イベントの開催

- ・ まちづくりに向けての散策会開催(青葉山地区)
- ・ なお、散策だけで終わらず意見交換やアンケートも実施



効果について

- ・ まちづくりには時間が必要だが、関わる人達の熱意により促進することが可能なことが判った。
- ・ 本事例の青葉山駅周辺マップ作成により、地域資源を活用したまちづくり活動が始まったことは促進に向けて大きな原動力となっている。
- ・ SNSの活用など情報ツールを使って、地域の魅力を発信するなど、より多くの方の協力を得てまちづくり活動に弾みがつくようにしたい。

10

まとめ

- ・ 鉄道特に地下鉄の新駅はどちらかと言うと出入口のみで目立たないところが弱点だが、上記取組により新駅に対する認識が高まり、駅周辺まちづくりの機運が盛り上がった。
- ・ 人と人とのつながりや人的ネットワークがまちづくり活動促進の大きな力になっている。
- ・ 公共交通利用促進・沿線まちづくり推進に向けて継続的なまちづくり活動が必要でありMMツールのさらなる活用が期待される。

11